

日本人の多くには、純粋なアジア農民の心はとうてい判らないのではないかという気がする。それに今なお子供も学生も大人も“土人”という言葉を手平気で使う。その無神経さに腹が立ってならない。テレビでもそうである。“土人”という言葉に含まれる自己の優越感、他への輕蔑をよく考える必要がある。そういう思い上がった心を捨てないからどこでもエコノミックアニマルといわれてきられるのである。最近インド政府が日本の海外青年協力隊(JOCV)によこした要望書を見て私は心をうたれた。それには“インド社会にみられる特殊性、俗信、禁忌、祭の祝典その他を非難しないような人々に来てもらいたい、”とある。まさにその通りで、現地の文化、民衆の心をおるがまゝに受容し、それとともに喜び、悲しめる心がまえの人こそ現地で望んでいることがわかる。富み榮えて心が貧しくなった今の日本人より、貧しいけれど純粋な信仰と伝統の豊かな心をもつアジアの民衆の方が人間として本当の道を生きているように思えてならないこのごろである。

人口移動論の一節

岸 本 実

人間の仕合せとは何か。人生論や幸福論についての書物は世の中に極めて多く、古今東西を問わずいつも論ぜられ、いつも考えつづけられている題目だと思う。そして人それぞれにそのニュアンスのちがいがあっても思われる。

仕合せと感ずる状態について、リービッヒの桶の理論を借用したい。リービッヒは著名なドイツの農芸化学者であり、肥料の研究からリービッヒの桶の理論を提唱した。桶はいくつかの彎曲した板をくみあわせ、これを束ねて底をつけたもの、桶の上端が揃っていなければ最も低いところから流れ出して、それ以上その桶には水は溜らない。これをリービッヒは肥料の要素にたとえ、窒素・磷酸等々のうち一つだけその量がどれほど多くても肥料の効力はなく、最も少ないものを基準としてその効力があらわれると説いた。人間の仕合せもこれにたとえられはしないだろうか。いくらお金があってもそれだけでは仕合せとはいえないし、名誉や地位だけでもいけないし、よい生活の伴侶が必要だし、よい子宝にめぐまれることも必要であろう。昔からよくいい古されたことばに、若い男女が相思相愛となり結ばれようとした時には、茅の柱に茅の屋根でもよいただ2人だけが結ばれば何もいらないと本当に心から思い、互に語り合う。しかしいざ結婚してみると、適当な家もほしいし、金もほしいし、ほしいものだらけ。そこに不満が出、不仕合せだと感ずるようになり、だ

んだん2人は身も心も離れて不幸になった事例は多い。人間の常として現在の不満が解消されたらそれだけでよい、あとは何もいらないと感ずるものである。病人がこの病気がなおりさえすればあとは何もいらないと感ずるのは無理からぬことではあるが、いざなってみればまた別の願いがであるものである。桶の側をつくる1枚の板だけを高めても水の容量は変わらないのと同じように、やはりわれわれは桶の上限をそろえつつその上限を高めようと努力するところに幸福の真髄があるのではなからうか。

人が住み慣れた場所を離れ、その居所を他の地域に移動させることが人口移動である。なかには自分の意志に基づいた自由移動ではなく、強制的に移動させられる強制移動もある。しかし後者は別として自由移動の原因をよく一般に経済に求めて説く人が多いが、人口の移動を経済のみに求めるのはどんなものだろうか。経済的要因も否定はできないが、全てがそうとは思えない。地域から人を押出す力、また別の地域の引きつける力を経済的要因にのみ求めるのは早計であり、そこに住む人の選択の基準は金だけではなく、生活全般であり、広い意味の幸福を求め、仕合せな生活のおくれるためのものと考えたいものである。

迷子になる話

木内 信蔵

ミセス木内は私を助手席に乗せて車を運転しながらよくつぶやく。「都市地理学者のくせにどうしてこう道や方角を知らないのでしょうかね」。車の航海士である私にこう答える。「東京の街が合理的に作られているなら分るさ。東京は出たためだもの」と。11月の初め親戚のお通夜に教えられた通りに行こうとしたが、結局ぐるぐる廻って家に分からなかった。別の者もその家を発見するのに小1時間を要した。港区の台地上の一角である。

東京の山の手は地形の複雑さがある上に、町が無計画に発達したから、路は細く曲って、通ったストリート大路はまことに少ない。江戸時代にはこのような状態にしておくことが防禦上便利であったかも知れないが、明治いらい昭和になるまで、放っておいた市(都)の考えが分らない。関東大震災後に発達した市部の外側、戦後の郊外市も、大部分は改善されることなくお百姓さんが肥え車を引いた路を淑女がハイヒールで歩き、バスは電信柱を侵食しながら通り抜ける。

ヨーロッパの古い城内も迷路であるが、教会や広場が結び目になって結局は目的地にたどりつけ